

「つなぐまちづくり」への アクションを考える

専門職と住民の視点の違い

生活からの視点

ご近所だから難しい、
都合よく関わりたい

自分の好きなものを選び、
楽しいから続ける

⇒ 結果的に仲間に

自信と権限に不安
地域資源を知らない

**日常の中で
の関係性**

**交流・集い
の場**

**生活・介護
の困り事へ
の対応**

専門職からの視点

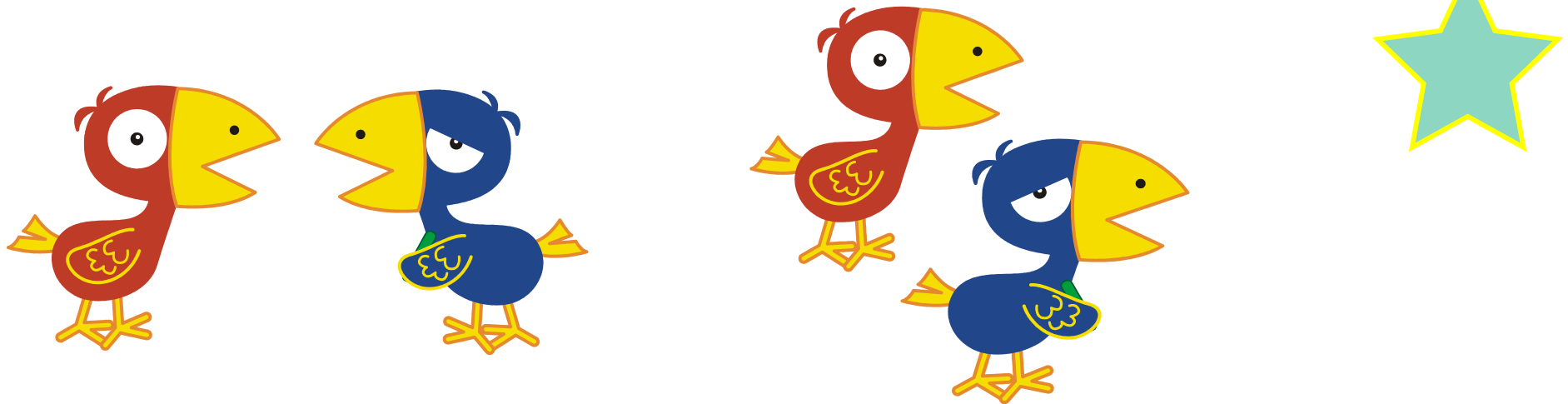
相互の見守り、
孤立させない

予防活動を含む
自主的な運営を
制度で支援

互助の仕組み
早期発見
緊急時の対応

協力は何のため？

- どちらが「協力」している？



- 協力の目的は「**相手**を助ける」「私を助けてもらう」のではなく、
「**共有するゴール**に向かい、共に歩む」こと
- **共に到達する**ために、協力・合意をする！

動くのは、住民が「自分で決めた」から

- “地域の課題”について最初には多くの人が他人事。
- ◆ **何が起きている**のか、現状を共有・理解し、
- ◆ **なぜ必要**なのか、自分なりの理由で納得し、
- ◆ **自分なりの**考え、好み、工夫を話すことができ、
- ◆ それを専門家が**聴き、評価**してくれ、
- ◆ 進め方を体験を通して学び、「**自分もできそう**」
とすることができ、
- ◆ するか・しないか、**決定権を委ねられた**時に、
- 「**自分で決めた**」と**思**えて、動き出せる

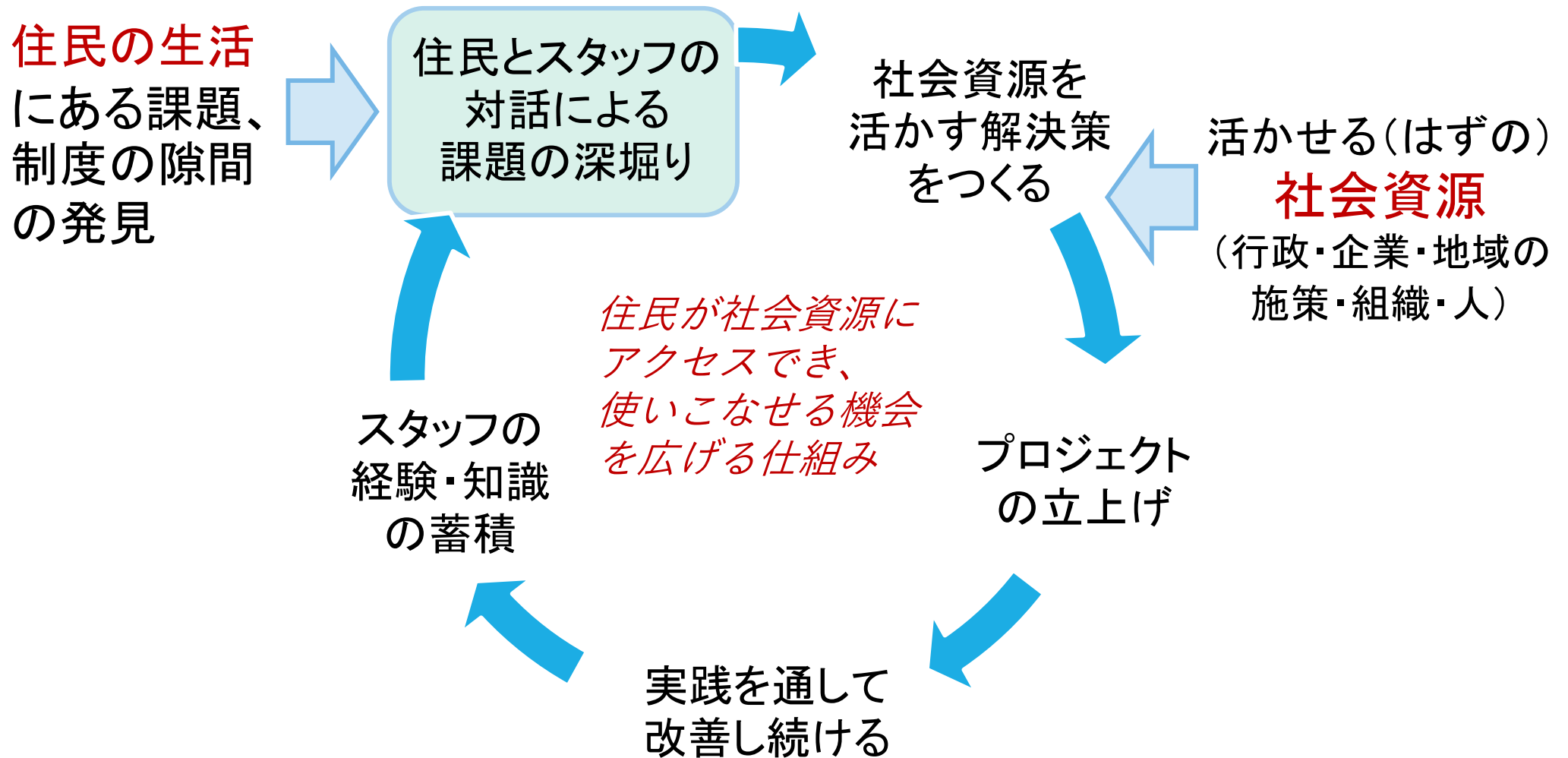
七人の侍 名言集

- 子どもは大人より働くぞ。
もっともこれは、大人扱いしてやればの話だがな
- 敵は怖い。誰だって怖い。
しかしな、向こうだってこっちが怖い。
- 人を守ってこそ、自分を守れる。
己のことばかり考える奴は、己をも滅ぼす奴だ。
- 今度もまた負け戦だったな。
勝ったのはあの百姓たちだ。わしたちではない。

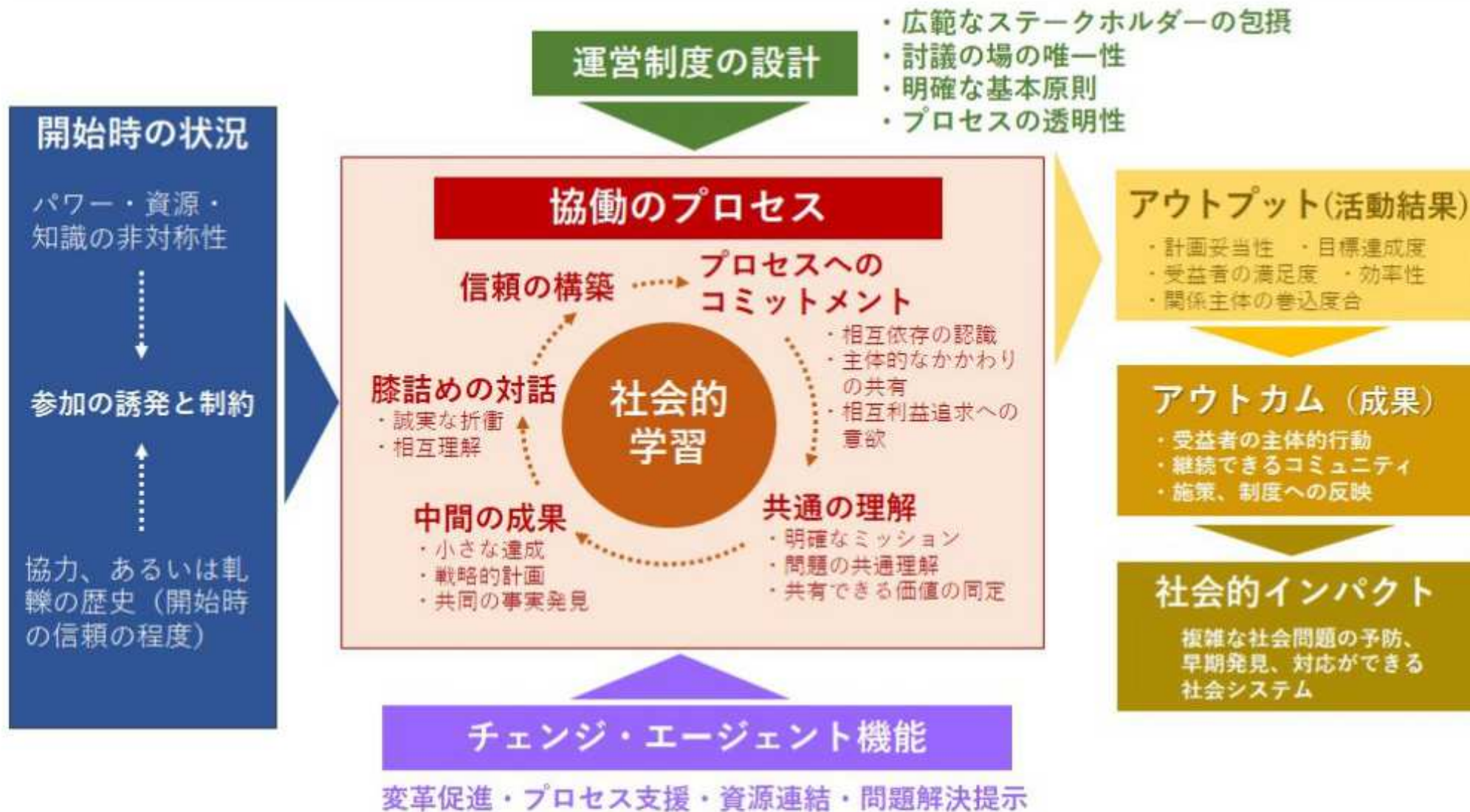
動き出せないのは自信がない時

- 自信は持てないのは・・・
元手がない（自覚できていない）時
- 新しいことを始める元手とは？
 - ① お金
 - ② 使わせてもらえるモノ（場所、道具など）
 - ③ 協力や助け合いができる関係性
 - ④ 新しい状況の経験・知識
 - ⑤ 使える時間
 - ⑥ 失敗に気づき、失敗から学ぶ学び方

地域から解決策が生まれる仕組み



協働を進めるガバナンス



※Ansell, C., & Gash, A. (2008), Havelock, R. G., & with Zlotolow, S.(1995)、佐藤・島岡 (2014) に基づき、共筆者作成

地域での課題解決の実施に必要なこと

□ わかる・共有する

- ▶ 地域で何が起きているのか？
- ▶ 自分にとって、どのように関係しているのか？
- ▶ 課題解決に役立つ施策、機関、人、活動の存在

□ 話し合う

- ▶ 自分の考え、経験を聴いてもらえている！
- ▶ 相手の話の文脈（背景、なぜ？）を理解する

□ みなおす

- ▶ 自分の視点・視野以外の見方、考え方がある
- ▶ 「自分だけ」「今のやり方」よりも良い解決法がある！

□ 任せる

- ▶ 自分にできることがある、自分が役立つ！
- ▶ 自分には実行できる“権限”がある

地域で課題解決のアクションを増やそう

- これからの地域に必要な住民の活動は？
 - ① どんな人に、なぜ参加してほしい？
 - ② 住民が「自分達が動く理由」を納得するために何を知る必要がある？
 - ③ どんな問題意識、ビジョンを共有してほしい？
 - ④ その活動を今、始める理由は？
 - ⑤ 地域課題を理解し、アイデアや活動内容などを一緒に考える上で、どのようなテーマでの対話が必要になる？

ふりかえり



良い「ふりかえり」を行うために

- ◆ 「反省(させる)会」ではなく、「評価しあう会」で
 - できていること、良いことを再現する、伸ばす
 - 課題を整理する、もっと良くなるには？
 - 活動、行ったことの「意味づけ」を行う
- ◆ 目的は**チーム力のアップ**！
- ◆ 結果としての状況ではなく、状況を起こした「行動」をふりかえり、チームとして行うことを明確にする
- ◆ 情報、経験、わからないことを共有する

ふりかえろう

- 今日のワークショップを通して、
これからのまちづくりで大切だと思ったことは？
- 自分がしている・できていると思ったことは？
- 自分・地域に足りない・できていないと思ったことは？
- どんなアクションをしていきたい？